



SCHWARZENEGGER
LAST ACTION HERO
THEATRIC TOMORROW '93

シュワルツェネッガー ラスト・アクション・ヒーロー

コロンビア映画提供 スティーブ・ロス・オーク・プロダクション ジョン・マクティアナン・フィルム アーノルド・シュワルツェネッガー "LAST ACTION HERO"

F・マリー・エイブラム アート・カーニー チャールズ・ダンス フランク・マックレー トム・ヌーナン オースティン・オブライエン

ロバート・ブrosキー アンソニー・ウィン マーゼス・スーレル 共同製作：ロバート・E・レリアニール・ワルドリンガー 視覚効果：リチャード・グリーンバーク 音楽：マイケル・ケイマン 編集：リチャード・A・ハリス ジョン・ライト

プロダクション・デザイン：ユージニオ・サネッティ 撮影：ティーン・セムラー A.C.S. 製作総指揮：アーノルド・シュワルツェネッガー ストーリー：サック・ベン&アダム・レフ

脚本：シェーン・ブラック&デビッド・アノット 製作：スティーブ・ロス&ジョン・マクティアナン 監督：ジョン・マクティアナン コロンビア映画作品 コロンビアトライスター映画配給

オリジナル・サウンドトラック / VHS・レーザーディスク / レイザー・ディスク / ビデオ・カセット

DISTRIBUTED BY
COLUMBIA TRISTAR
FILM DISTRIBUTION
A VIACOM COMPANY
DO NOT REMOVE THIS LABEL
COLUMBIA TRISTAR
SR
ADVANCED THEATRE



SCHWARZENEGGER LAST ACTION HERO

夏休み映画の真打ち、遂に登場! 地上最強の男、シュワルツェネッガーが 史上最大のエキサイティングムービーに挑む

「ターミネーター2」のアーノルド・シュワルツェネッガー。「ダイ・ハード」の監督ジョン・マクティアナン。アクション映画の頂点を極めたBIG2が、すべての映画ファンを〈前人未踏〉のアドベンチャー・ワールドへいざなう――。

主人公は、映画という虚構の世界を疾走するスーパーヒーロー、ジャック・スレイター。そして、スクリーンのスレイターに憧れる11才の映画大好き少年ダニー。ある日、不思議なムービー・チケットを手にした少年は、その持つマジカル・パワーによって、現実の世界から映画の中へ吸い込まれる。

そこは、すべての夢がかなうエキサイティングな冒険空間。憧れのヒーロー、スレイターとパートナーを組み、悪人相手にデンジャラスな戦いを挑むダニー。ところが、大事なチケットを敵に奪われてしまい、一味は現実の世界への“壁”をつき破る。間髪を入れず追撃するスレイターとダニー。二つの世界を股に展開する正義と悪の戦いの行方は…/

光り輝く一枚の魔法のチケットがもたらす、映画の世界と現実の世界の想像を絶する合体。巧妙な「劇中劇」のスタイルをとりながら、さらに未知なるエンタテインメントの領域に踏み込んだファンタスティック・アクション・アドベンチャーである。

カー・チェイス、爆破、炎上、転落…アクションの基本形をSFXの駆使でよりスケールアップ。ヒーローと少年の間にはほのぼのとした気分もたまた、一方で映画ネタによる楽屋落ち連発の楽しさも。映画はここまで面白くなる。二つの世界を駆けるダニーとスレイターの信じられない冒険は、まさに途中下車不可能のローラーコースターなのだ。

空前の大ヒットを記録した「ターミネーター2」から2年。究極のヒーロー＝ジャック・スレイターに扮したシュワルツェネッガーが、文字通りのスーパースターぶりを発揮する。今回は初めて製作総指揮も兼任し、スクリーンの内と外で大車輪の奮闘。アクション・スターとしての自らのイメージを集約したスレイター役は、すべてのファンが大満足のはずだ。

そんなシュワルツェネッガーに協力してダイナミックなパワー演出を見せるのが「ダイ・ハード」「レッド・オクトーバーを追え!」のアクション派ナンバーワン、マクティアナン。「プレデター」以来6年ぶりの彼らの再会こそ、映画界にとっての一つの“事件、”といっても過言ではない。

『T2』はこの映画に較べればちっほけな モノになるだろう――シュワルツェネッガー語る

ニューヨークのタイムズ・スクエアに〈バンドラ〉という映画館がある。かつては一流館だったが、いまは浮浪者の安宿も兼ねる二番館。そんなうらぶれた劇場を第二の自宅としている少年がいた。ダニー・マディガン（オースティン・オブライエン）は11才。ウェイトレスの母アイリーン（マーセデス・ルー）と二人暮しの彼は大のアクション映画ファン。中でも目がないのが、LA市警のスーパーコップ、ジャック・スレイター（アーノルド・シュワルツェネッガー）が主人公の一連の作品で、今日も憧れのヒーローが大活躍する「ジャック・スレイターⅡ」にかぶりつき。孤独な少年が唯一絶対に信じられるもの、それがスレイターのアクション・ワールドだった。ところが、映画がクライマックスにさしかかったところで、突然画面のピントがボケるハプニング。スレイターの活躍に酔っていたダニーや他の観客から思わずブーイング。

そんなダニーの心の友に、バンドラの映写技師でニック（ロバート・プロスキー）という風変わりな老人がいた。ある日ダニーはニックの手伝いで次回上映作「ジャック・スレイターⅢ」のフィルム・チェックに立ち合えることになった。魔術に凝るニックは、少年に一枚の光り輝く不思議なチケットを与えた。チベット、インドの魔術師たちの手をへた“別世界”へのパスポートだという。ダニーはチケットの半券をポケットに忍ばせると、はやる心を抑えながら、ひとり映画館の座席に身を沈めた――。

画面は南カリフォルニアに一大勢力を張るギャングの大ボス、ビバルディ（アンソニー・クイン）の邸宅を映し出す。残忍なビバルディが庭で一人の男を痛めつけている。その男フランク（アート・カーニー）は、ジャック・スレイターの唯一の又従兄弟で、組織の動きがどこまでツツ抜けか吐かせようというのだ。命乞いするフランクの前に、組織の殺し屋ベネディクト（チャールズ・ダンス）が不気味な姿を現わし、ビビらせる…。

スレイターが駆けつけた時、フランクは虫の息の下から組織の動きを伝えてこと切れた。その途端に、大爆発が起き、警備の警官もろともフランクの家がふっ飛んだ。怒りのスレイターは愛車のポネビルに飛び乗り、ルーガー・ブラックホーク銃をつかむと、逃げる殺し屋たちを追撃する。まるで打ち上げ花火を思わせる連続アクションの幕開けに、ダニーは早くもノックアウト。その時、彼のポケットの中の拳銃のチケットがチカチカと輝いた。3Dじゃないのに画面からダイナマイトの束が飛んできた。通路を逃げるダニー。もうダメと思った瞬間、スクリーンの世界がダニーを呑みこんだ。

「誰なんだ、おまえは?」突如現れた見知らぬ少年に目をまるくするスレイター。わけがわからないのはダニーも同じ。が、目の前にいるのは映画で見てきた通りのスレイターその人。飛びかう銃弾をもともしない無敵の戦いぶり。激突、爆発、炎上/凄い場面の連続にダニーは思った。「ぼくはいま映画の中にいる」と。

8月14日(土)

有楽町マリオン新館7F
丸の内ルーブル
03(3214)7761

渋谷東急文化会館1F
パンテオン
03(3407)7219

新宿歌舞伎町
ミラノ座
03(3202)1189

東口パルコ先創・池袋とじろびん7F
池袋東急
03(3971)2727

京成上野駅・池ノ端口前
上野東急
03(3831)6620

〈夏休み〉ロードショー!

★特製プレミアム付 特別鑑賞券発売中
★一般券1400円★学生券1200円
★ペア券(前座込のみ)2800円★小人券800円

町田中央通り・東急ビル7F/毎水曜休
まだ東急ル・シネマ
0427(22)2255

多摩センター駅前・カリヨン館6F
多摩カリヨンシアター
0423(89)1080

春日部ロビンソン百貨店7F
春日部ロビンソンシアター
048(763)1634

本川越駅・徒歩5分
川越シアターホームラン
0492(22)1211